

1 研究主題

自ら考え、学び合う子どもの育成

～より活発な対話を引き起こす知識構成型ジグソー法の在り方を通して～

2 主題の意味

主体的に学習に取り組むことは、学習内容を理解し活用していくうえで必要なことである。主体的な態度は、他者によって一時的に生まれるものではなく、子どもの内面から生まれ、その気持ちが持続していくものであるといえる。したがって、「自ら考える子ども」とは、内面的な動機づけによって、子どもが課題に対して、自ら「問い」をもち、既習事項や経験をもとに見通しをもち、筋道を立てて自力解決をしていく子どもであるとする。

「学び合う」とは、子どもが主体的な問題解決活動の過程において、自力解決するだけでなく、それぞれの考え方を集団の中で出し合い、比べ、交流し、よりよい解決方法、より多様な考え方を導きだそうとすることである。

具体的な「学び合う子ども」の姿を、次のようにとらえる。

課題解決のための「学び方」を身につけ、主体的に課題解決に向かう子ども
自分の考えを分かりやすく表現できる子ども
自分と友だちの考えを比較し、考えを広げたり深めたりできる子ども
学び合うことの価値を知り、友だちとの学び合いを楽しむことができる子ども

副主題の「より活発な対話を引き起こす」とは、ただ単に自分の意見を伝えたり聞いたりするだけでなく、そこから新たな考えを導き出したり、多角的多面的に物事を考えたりすることができるような対話を引き起こすことである。子どもたちが本来持っている「わかりたい」「できるようになりたい」という願いを基に、考えるべき課題に対して自らの考えを相手に説明したり、相手の考えを聞いたりして、対話を重ねながら自分の考えと友だちの考えを比較・関連付け・統合してより質の高い考えへと深化させていくことである。単なる答え合わせで終わるような知識や表現は、インターネットで簡単に手に入れることができる。しかし、社会で求められているのは、様々な知識や情報を活用しながら未知の課題を解決しようとしたり、より高度な解を導き出したりする力である。そのため、一人一人が考えを持ち寄り互いに考えをぶつけ合うことによって、各々が新たな考えを導き出せるような子どもたちを育てたい。

「人は一人で学ぶよりも、他の人と協調的に問題を解決することでよりかしこくなれる。」という協調学習の理論に基づき、授業の中で意図的に協調学習を引き起こすために「知識構成型ジグソー法」が有効であると提唱されている。そこで、本校ではこの理論に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための手法である協調学習（知識構成型ジグソー法）を取り入れる。副主題の「知識構成型ジグソー法の在り方」とは、知識構成型ジグソー法における、エキスパート・ジグソー・クロストークという3つの大きな活動場面に焦点を当てている。エキスパート活動で持ち寄った複数の部品を統合的に活用して課題にアプローチするとともに、各々が一緒に課題の答えを考えるとともに、クロストークで全体交流することを通して一人一人の視野が広がり、表現できる解の質が上がっていくと考える。

3 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

21世紀を生きる子どもたちの周りでは、高齢化や少子化などの社会の様々な変化をはじめ、地球規模での経済情勢の激変、高度情報化社会の進展など、今後一層の激しい変化が予想される。

それにともない新学習指導要領においては、情報化やグローバル化など変化の激しいこれからの社会で活躍するために必要な資質・能力として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性

等」が掲げられ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが明示されている。

また飯塚市においても、子ども達の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力として「コミュニケーション能力」「コラボレーション能力」「イノベーション能力」の3つを掲げている。

このような社会情勢・教育情勢から、子ども達が仲間とともに考え、考えたことを交流し共に学び合う指導の在り方を究明していくことは、意義深いことだと考える。

(2) 子どもの実態から

<令和4年度標準学力調査平均正答率の結果から～全国との比較>

○ 教科全体

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国語	80.3	78.2	74.1	68.2	70.1	65.6
全国	74.6	82.0	74.4	72.0	72.7	74.5
算数	86.1	70.0	74.9	61.5	61.0	63.8
全国	82.0	70.0	71.1	68.3	60.0	71.6

○ 観点別

			1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国語	知識・技能	校内	85.1	82.5	69.5	74.0	68.0	64.9
		全国	80.8	88.0	71.0	77.7	70.4	73.2
	思考・判断・表現力	校内	74.1	71.4	71.0	57.7	68.2	60.0
		全国	67.5	74.1	70.5	63.4	70.7	70.1
	主体的な態度	校内	75.8	66.8	63.9	47.3	76.3	63.6
		全国	64.6	67.3	59.3	58.3	72.0	69.2

			1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
算数	知識・技能	校内	90.3	74.5	77.6	64.9	69.4	67.9
		全国	86.9	74.5	75.1	72.2	66.0	74.8
	思考・判断・表現力	校内	73.8	51.8	66.7	51.3	47.1	48.9
		全国	67.9	52.2	59.2	56.6	50.1	60.1
	主体的な態度	校内	80.3	58.7	67.9	30.0	53.3	50.3
		全国	74.0	58.2	63.2	44.2	49.1	62.2

昨年度末の標準学力調査の結果をみると全国平均並みの学年もあれば、平均を大きく下回っている学年もあり、学年格差がみられる。また、観点別にみると、とりわけ国語科の観点が全学年ともに低いことが分かる。

この結果から、子どもたちに基礎的・基本的な学力を身につけさせるとともに、学習において、「自分で考える楽しさや友達と学び合う楽しさ」を味わわせる必要があると考える。

以上のことより、本校の子どもたちの苦手とする考える力・表現する力に焦点をあて、見通しをもち、自ら考える指導の手立てや、考えたことを相手に分かりやすく表現する手立てを工夫することにより、自ら考え、学び合う子どもの育成をめざそうと、本研究主題を設定した。

(3) 本校教育目標から

本校の教育目標は、「わかるまでがんばる、からだと心をきたえる、なかよくたすけあう 若菜っ子の育成」である。

これらの教育目標を達成するために、自ら学び、自他の良さを認め、互いに高まり合うことを目標にし、日々の教育活動に取り組んでいる。研究主題である「自ら考え、学び合う子どもの育成」は、本校の教育目標の実現を図ることとつながりが深い。

4 研究の目標

自ら考え、学び合う子どもの育成を目指すために、より活発な対話を引き起こす知識構成型ジグソー法の在り方について究明する。

5 研究仮説

以下にあげる2つの着眼を設定することで、課題に対して自ら考え学びあう子どもを育成するであろう。

着眼1 「主体的に考えることのできる課題の設定」

着眼2 「比較・関連付け・統合することのできるエキスパート資料の工夫」

6 研究の計画と内容

(1) 年次研究計画（複数年計画）

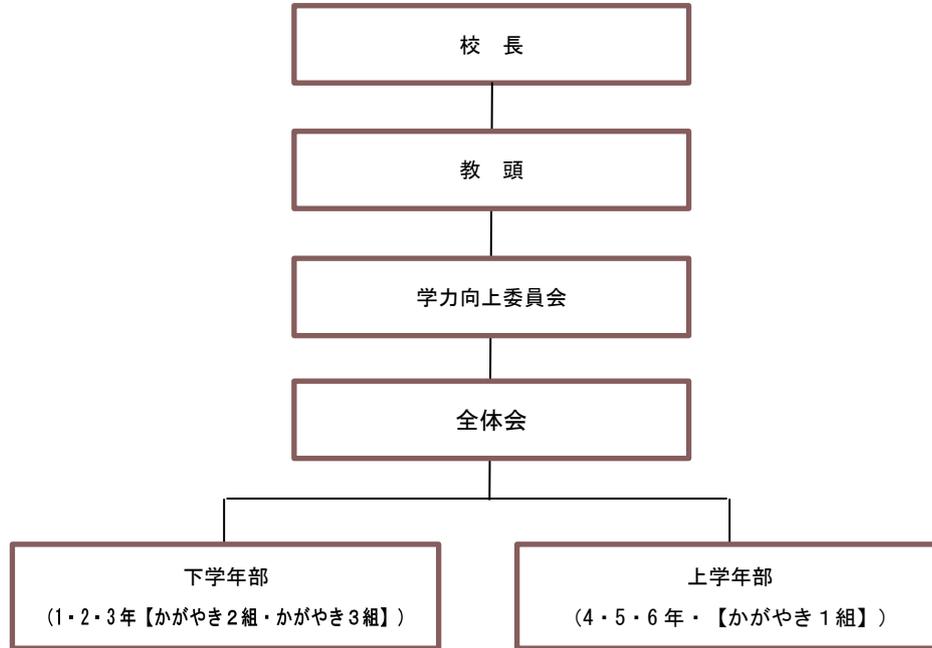
令和4年度	<ul style="list-style-type: none">実践にあたっての理論研究主体的に考えることのできる課題の設定比較・関連付け・統合することのできるエキスパート資料の工夫エキスパート活動・ジグソー活動・クロストークを通じた学習形態の工夫全体研修、各部研修による授業実践（全職員）実践の評価・考察研修の総括
令和5年度	<ul style="list-style-type: none">実践にあたっての理論研究主体的に考えることのできるメインテーマの設定比較・関連付け・統合することのできるエキスパート資料の工夫、選定自発的に意見交流できるクロストークの在り方エキスパート活動・ジグソー活動・クロストークを通じた学習形態の工夫全体研修、各部研修による授業実践（全職員）実践の評価・考察研修の総括

(2) 今年度の研究内容

着眼	着眼の具体例
「主体的に考えることのできる課題の設定」	<p>①意欲性</p> <p>○これまでの生活経験や既存の知識を生かすことのでき、「やってみよう」「考えてみよう」となる課題。</p> <p>○生活経験や既存の知識とのズレがあったり、疑問を持ったりすることができ、「なぜなんだろう。」「こんなことがあったんじゃないだろうか。」と、問題意識を高め、調べたくなるような課題。</p> <p>②協働性</p> <p>○自分一人では十分な答えを導き出すことが難しいが、他者との対話を通じ、一緒に話し合いながら考えていくことで答えへと迫ることができるような課題。</p>
「比較・関連付け・統合することのできるエキスパート資料の工夫」	<p>①対話性</p> <p>○「○○だから～じゃない?」「でもこっちでは～だから…。」といったように、子どもの思考に揺れが生まれるような資料。</p> <p>②多面性</p>

	<p>○視点や立場を明確にし、課題解決に向けた一つの見通しを持たせることができたり、考えるべきよりどころを持たない子どもの思考の補助となったりする資料。</p> <p>○「資料Aでは・・・」「でもこの資料では・・・。」といったように、様々な視点で考察したり、これまで獲得してきた知識や経験を上手に使って考えたりすることのできる資料。</p>
--	--

7 研究の組織



8 研究の進め方

(1) 教科等について

各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間

(2) 授業研究について

CoREF のホームページや過去の実践を参考に全学級 協調学習の授業を 1 本行う。

特別支援部については、協調学習にとらわれず、研修主題に対する個別の手立てに取り組む。

初任者については、初任者授業研修に変える。

○ 各部授業研修 ～ 各学年で授業を参観しあう。（他の学年の参観は自由とする。）

○ 全体授業研修 ～ 上学年部・下学年部の中から 1 本ずつ、年間 2 本行う。

※全体授業研修の際は、当該学年のみ木曜日の 5 時間目に行い、それ以外の学年は 4 時間で放課とする。

(3) 日程について

学年で単元と時期を話し合い、決定する。

全体授業は各部で話し合い決定する。

令和5年度 研修計画案

令和5年6月 学力向上部

研修日日程

日付	曜日	学校行事	研修内容
4月6日	木	始業式	
4月13日	木		
4月20日	木		
4月27日	木	NRTテスト	
5月4日	木	みどりの日	
5月11日	木	家庭訪問	
5月18日	木		主題研修 (提案・授業者決め)
5月25日	木	学力・心力向上委員会	
6月1日	木		一般研修 (心肺蘇生法研修)
6月8日	木		一般研修 (水質管理にかかわる研修)
6月15日	木		主題研修 (再提案・理論研修・授業者決め)
6月22日	木		
6月29日	木		
7月6日	木		
7月13日	木		
7月20日	木	終業式	
7月27日	木	個人懇談	
8月3日	木		
8月10日	木		
8月17日	木		
8月24日	木		
8月31日	木		
9月7日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
9月14日	木		
9月21日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
9月28日	木		
10月5日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
10月12日	木	15日日曜日運動会	
10月19日	木		
10月26日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
11月2日	木		
11月9日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
11月16日	木	修学旅行	
11月23日	木	勤労感謝の日	
11月30日	木		
12月7日	木		主題研修 (学年・各部打ち合わせ)
12月14日	木	個人懇談	
12月21日	木	終了式前日	
12月28日	木		
1月4日	木	御用始め	
1月11日	木		
1月18日	木		
1月25日	木		
2月1日	木		主題研修まとめ締切
2月8日	木		
2月15日	木	入学説明会	
2月22日	木		主題研修まとめ・来年度の方向性
2月29日	木		
3月7日	木		
3月14日	木	6年終了式	
3月21日	木	春分の日	
3月28日	木		

理論研修 (予定)

各部授業研修
全体授業研修 実施